

沼津芹沢光治良文学愛好会 2022年度報告



賛助会員の皆さま、
(写)一般会員の皆さま、

2023年6月30日

謹啓 益々ご清祥のことと存じます。
平素は「沼津芹沢光治良文学愛好会」の活動に、ご支援とご指導を賜わり、厚くお礼申し上げます。

当会は、沼津市出身の作家芹沢光治良(せりざわ こうじろう)の作品を楽しく読み、芹沢文学の魅力や素晴らしさを未来へ伝える活動をしております。

以下、2022年度(2022年6月 - 2023年5月)の主な活動をご報告申し上げます。私どもの活動につき、引き続き宜しくご指導、ご助力のほど、お願い申し上げます。

沼津芹沢光治良文学愛好会
〒410-0823沼津市我入道東町151-1
芹沢光治(せりざわこうじ) 方
電話：090-7855-4229

代表 不破 久温
副代表 芹沢 光治
会計 五十嵐由子

1. 光治良作品の朗読と縁の音楽を聴く会

より多くの方に『人間の運命』や『巴里に死す』などの光治良作品に親しんで頂きたくて、一人での黙読や、輪読会で作品の創作背景を議論するのではなく、ただ朗読の声に耳を傾けていただく会を、新しい企画として催しました。

朗読と音楽を聴く会

昨年12月18日の定例会では、『人間の運命』（8巻）の一部と、『月光の曲』の部分を取りあげました。朗読は、沼津で舞台劇などの活動をしている関谷昭夫さん、関谷恵生子さんをお願いし、「光治良文学の言葉」をじっくり聴いて頂きました。

芹沢光治良を偲ぶ会

光治良の誕生日の5月4日、「**光治良を偲ぶ会**」を催しました。約50人が参加されました。

光治良は、生前、ピアノの音をととても愛したようです。そこで、今回はピアノが登場する『**緑の校庭**』の朗読を聴き、電子ピアノの演奏も楽しむプログラムを企画しました。

朗読は、沼津で朗読劇の活動をしている江藤幸さんに、また（電子）ピアノ演奏は、ピアニストの及川智史さんをお願いしました。フランス近代音楽の美しさにも触れたひとときでした。



江藤 幸さん

及川智史さん

「芹沢光治良を偲ぶ会」の様子は「静岡新聞」に掲載されました。

沼津市出身の作家芹沢光治良（1896～1993年）の愛好家で作る「沼津芹沢光治良文学愛好会」（同市）は4日、生誕127年を祝い、初めて「偲（しの）ぶ会」を開いた。約50人が小説の朗読や芹沢が生前愛したといわれるピアノの音を聞いて、芹沢に思いをはせた。芹沢が4人の娘のために執筆した少女小説「緑の校庭」を会員が朗読したあと、ピアニスト及川智史さんがドビュッシーの「月の光」、ラヴェルの「悲しい鳥たち」など全5曲を演奏した。来場者らはピアノが奏でる音色に耳を澄ませ、精力的な文筆活動とともに日本文学の普及や文筆家の権利擁護などに尽力した芹沢の生き方を回顧した。来場した間宮敦子さん（53）＝同市＝は「芹沢さんの世界に入り込んだ。誕生日を祝うことができたと思う。」と話した。

静岡新聞電子版記事（2023.5.6.）

2-1. 芹沢作品対話会－沼津市立沼津高等学校

若い世代の皆さんに、芹沢光治良の作品に触れる機会を提供しようと、2022年、沼津市立沼津高等学校・中等部の先生がたにご助言を頂き、試験的プログラムを行いました。高校生と会員が車座で、『人間の運命』や「緑の校庭」など芹沢作品の印象深い箇所について自由に対話しました。高校生の皆さんは積極的に創造的な対話をしてくれました。

2-2. 芹沢作品対話会－静岡県立沼津東高等学校

高校生と芹沢光治良作品を巡って対話する会は、静岡県立東高等学校でも開催させて頂きました。テキストは、『人間の運命』と『巴里に死す』の一部を読み、芹沢作品を読んで印象に残った箇所についての対話では、高校生らしい自由な発言が出ました。また、事後アンケートでも高い評価を頂きました。

3. 光治良忌

光治良の命日（3月23日）を前に墓前で「光治良忌」を開催しました（3月11日）。没後30年の今年も光治良ファンや親族約50人が献花されました。

沼津朝日

令和5(2023)年3月15日(水)

没後30年の光治良忌

作品愛好者や遺族ら参列し市営墓地で

芹沢光治良の命日である3月23日を前に「光治良忌」が11日、中瀬町の市営墓地内の光治良の墓前で行われた。

今年も光治良の没後30年に当たり、芹沢文学の愛好者や親族など約40人が訪れ、墓前に献花し、手を合わせた。

光治良の四女、岡玲子さん（故人の娘、寿里さんも現在から帰国。

あいさつで太平洋戦争中に平和への思いを込めて書かれた作品も多いことに触れ、「世界の情勢が

不安定な折、特に若い世代の人達にも、芹沢文学を読んで得るものがあれば、歴史は繰り返すと言われるが、それを防ぐため、文学を通して考えてほしい」との思いを語った。

また、多くの人が参列したことに感謝し、「沼津の皆さんに引き続き見守っていただきたい」と願った。

沼津芹沢文学愛好会の不破久温代表は参列者に「沼津市歌」について説明した。この歌は1955年（昭和30）、沼津市と愛鷹、大平、内浦、



芹沢光治良の墓前に献花する孫娘の岡寿里さん＝市営墓地で

西浦の四村が合併した際に作られたもので、中田喜直が作曲。歌詞については公募し、応募された中から入選した歌詞に芹沢光治良が補作を行った。今も毎日の正午のチャイムとして流れるメロディは市民の耳になじんでいる。

芹沢光治良記念館

4. 芹沢光治良記念館の敷地環境整備

記念館建物周囲の植栽整備を本会顧問の天野博人さんが続けて下さっています。お蔭で、生垣がとても美しくなりました。また、駐車場の地面整備もして下さり、収容台数も大幅に増えました。沼津市のR4年度工事で正面玄関前にスロープと手摺も設置されました。



5. 芹沢光治良文学の価値を未来へつなぐ活動

5 - 1. 企画展特別説明会への参加



沼津市芹沢光治良記念館では、毎年企画展開催にあわせて、記念館の学芸担当職員の方が、展示内容を易しく解説する、《ギャラリートーク》を行っています。本会会員にとっても、芹沢文学の魅力に触れる良い機会なので、積極的に参加しています。2022年度は、光治良の欧州体験に光をあてた展示を見学し、作品理解に繋がりました。

5 - 2. 記念文化財団主催の行事に参加



東京の「芹沢光治良記念文化財団」は、光治良文学の顕彰と作品の普及に関連した事業を行っています。2022年度は、沼津市芹沢光治良記念館の劔持副主任が講師で、企画展『光治良の欧州体験』の概要を紹介。沼津の当会会員も聴講しました。

6. 文学散歩・ウォーキングへの参加

沼津市芹沢光治良記念館主催の「文学散歩」の企画催事では、毎年、市内の関係史跡や、作品に登場する景勝地などをめぐる「ツアー」を楽しめます。2023年は、沼津市政施行100周年記念の「**沼津市ゆかりの文学者を偲ぶ**」ウォーキングが開かれました。記念館の学芸関係職員の方が、作家と沼津の関係など分かり易く解説してくれました。本会会員も参加しました。（2023年5月20日）



文学散歩の参加者
沼津市民文化センター
で、井上靖の筆跡を
見る。

芹沢文学の魅力ばかりでなく、沼津にゆかりの作家たちの魅力、作品と、沼津の景観に触れる良い機会になりました。



光治良の生家跡の石碑
光治良（最前列左から
7人目。花束を持つ）
と地元関係者が集まり、
石碑前で記念撮影した
古い写真が残っている。
（芹沢光治氏蔵）

7. 沼津文学講演会の聴講

3年ぶりに沼津市文学講演会が開かれ、聴講しました。講師は、芹沢光治良文学の研究者で記念館懇話会委員の鈴木吉維先生。演題は「西洋への憧れ」。光治良の西洋への憧れのは、幼いころの貧しさの経験から、社会の貧困解消の強い希望がもとだったのだろう、と話されました。「沼津朝日」の講演会紹介投稿

沼津朝日

2023年(令和5年)1月12日(木曜日)

言いたい
ほうがい

を準備、主催下さる沼津市教育委員会、沼津市芹沢光治良記念館の皆さまに紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

後に小説『孤絶』(1941~1943)の主人公に、その後の光治良の生き方に深く影響したといえる「欧州での経験」は、1953年に、フランス語に訳され、欧州でも高く評価された作家の佐伯祐三(さえき・ゆうぞう)、フランス文化研究者の椎名其二(しいな・そのじ)などとの交流を示した史料を含む資料約100点が展示されています。どうぞ、ご来館ください。

沼津出身の作家、芹沢光治良の文学に關係する講演会が明日の14日(土)、市立図書館で開かれます。開場1時、開始1時半です。

光治良は、29歳で留学したフランスで結婚と診断され、イスなどでの高地療を打ち込める」と語ります。

講師は、四十年以上も芹沢文学を研究しておられる鈴木吉維(すずき・よしつな)先生で、演題は「西洋への憧れ」。前回開催の2019年から、ほぼ3年ぶりの「文学講演会」です。

芹沢光治良の欧州体験

不破 久温

講演は、四十年以上も芹沢文学を研究しておられる鈴木吉維(すずき・よしつな)先生で、演題は「西洋への憧れ」。前回開催の2019年から、ほぼ3年ぶりの「文学講演会」です。

養生活に入り、そして、いつ果てると、作者の光治良が欧州で体験したこと、その深さと堅(かた)さ、そして、いずか知らぬ命を意味する日々、ほんとの自分(自己)がさが伝わってき、意識されるようになります。この「体験」は「日本と自分のため」の短い「自分自身を強く促し、自己とそれを取り巻くものを意識させる」という「希望」に燃やしたいと決意したようです。

「経験」といったほ(3)も自身の「欧州での経験」が書かれた作品と言えます。

いま、我入道の芹沢光治良記念館では企画展「光治良の欧州体験」(2)を開中しています。光治良が留学時代に交流した画家の佐伯祐三(さえき・ゆうぞう)、フランス文化研究者の椎名其二(しいな・そのじ)などとの交流を示した史料を含む資料約100点が展示されています。どうぞ、ご来館ください。

(沼津芹沢光治良文学愛好会会員、上石田)

沼津 芹沢光治良文学愛好会 入会のごあんない

「沼津芹沢光治良文学愛好会」は、芹沢光治良の作品を楽しく読んで語りあい、その素晴らしさを未来へ伝える活動をしています。2022年度は、会員以外の方に、芹沢作品に触れて頂こうと新イベントを企画しました。一つ目は、高校生のみなさんに芹沢作品を読んで会員と「作品をめぐる対話」をして頂く企画。二つ目は、芹沢作品の朗読会で「ゲストが作品を読む声」を聴き、作品に縁のある音楽も聴いて頂く企画です。どちらも、ひたすら眼で文字を追う黙読とはひと味違う経験をしたと、参加者から好評を得ました。

本会の活動にご興味をお持ちの方は、定例会などにご参加ください。

会員には、

実際の活動に参加する「一般会員」（年会費4,000円）と、活動に支援・助言する「賛助会員」（1口5,000円以上）があります。

2023年度の当面の定例会日程は以下の通りです。

| 月日 | 場 所 | 主 な 内 容 |
|--------|----------|----------------|
| 7/23 日 | 沼津市立図書館 | 会員の講演（詳細未定） |
| 8/13 日 | 芹沢光治良記念館 | 作品対話『神の計画』3・4章 |
| 9/16 土 | 場所未定 | （仮）沼津ゆかりの作家 |
| 10/15日 | 沼津市立図書館 | 作品対話『離愁』 |
| 11/19日 | 沼津市立図書館 | 作品対話『神の計画』5・6章 |
| 12/16土 | 芹沢光治良記念館 | 作品の朗読を聴く会 |

《 開催時間は、何れも13:30～15:30 》